国語科「書くこと」の研究について

松下 裕幸

国語科「書くこと」が目指す「子供が学びをつくる姿」

詳しくは目指す子供の姿シートへ

これまでの２年間の研究を生かし，今年度国語科「書くこと」では「子供が学びをつくる」姿を下記のように設定しました。また，この姿を実現するための支援を整理しました。

【課題設定】

子供の姿　表現の意図を明確にするとともに，目的や意図，相手に応じながら，題材を設定することができる。また，表現の意図を具体化することができるとともに，題材を修正することができる。

支　　援　社会科との関連的な指導等によって，話題に関する知識を十分に獲得させる。

【課題追究】

子供の姿　目的や意図に応じた情報を集めるとともに，目的や意図，相手等に応じて，集めた情報を整理し，表現の意図に応じた内容を検討することができる。また，表現の意図に応じて，一貫性のある構成を検討することができる。さらに，文章の特徴に応じながら，集めた情報を整理する方法を考えることができる。加えて，情報の整理を振り返って，再整理したり，再構成したりすることができる。

支　　援　段落相互の関係の端的に捉える場面を設定したり，視点に基づいて文章を整える場面を設定したりする。

【パフォーマンス】

子供の姿　表現の意図や文章の様式に応じて，表現を工夫したり，推敲したりすることができる。また，読み手の考えに基づき，必要に応じながら書いた文章を修正することができる。読み手の考えに基づき，必要に応じながら，修正点を次の文章に生かそうとすることができる。

支　　援　思いや願い，視点，学習方法や取組方を振り返る場面を設定する。

これまでの研究を通して，子供が自己をメタ認知する支援によって，子供たちが高いモチベーションを維持し，活動を調整したり目的に応じて選択したりして，主体的に学び続けることが明らかになりました。今年度は，子供が「対象への思いや願い」，「学習方法や取組方」，「自分自身への気付き」に能動的に関与し，調整していく「自己調整」に整理・焦点化して，研究を進めてきました。

国語科「書くこと」研究実践における子供の「自己調整」

詳しくは実践指導案へ

国語科「書くこと」の研究実践「見つけたよ，仕事のくふう」では，子供の「自己調整」の姿を下記のように構想し，授業実践に取り組みました。

	対象への思いや願い	学習方法や取組方	自分自身への気付き
研究実践における自己調整の姿	伝えることへの思い 売り上げを上げるための工夫を伝えたいという思いや願いをもつ。 伝わりやすい文章を書く必要感をもつ。	実現に向けて 始め（かんたん）−中（くわしく）−終わり（かんたん）の構成を生かす。 始めと中のつながり（包含関係）と中と中のつながり（累加関係）に気付き，文章の構成を考えることができる。 包含関係と累加関係を基にしながら，調査報告文を書いたり，確かめたりして，文章を整える。など	思いや考えの変化，自分への気付き 文章を構成したり書いたり，推敲したりする時に，包含関係や累加関係を考えると伝わりやすい文章が書けることに気付き，振り返る。
	・　こんなに工夫をしていたなんて驚いた。誰かに伝えたいな。 ・　伝えるためには，うまく伝えないといけないな。もうちょっと伝わりやすくならないかな。	・　「始め（かんたん）」−「中（くわしく）」−「終わり（かんたん）」が使えそうだ。「中」は「始め」とぴったりな内容になるように選ぶけど…ぴったりになっていない？どれを選べばいいか友達に聞いてみよう。など	・　やっぱり「始め（かんたん）」−「中（くわしく）」−「終わり（かんたん）」が使えた。 ・　「中」は「始め」とぴったりな内容になるように書けたし，「中１」と「中２」は仲間になるように書いたから，伝えたいことがはっきりしたと思う。など

国語科「見つけたよ，仕事のくふう」研究実践について

研究実践においては，思いや願いをもたせるために，動画や文献，見学調査の社会科との関連的な指導とともに，文章を書く相手を設定しました。また，本単元の学習内容の理解を深め，子供が学習方法や取組方を工夫することができるように，文章の様式の特徴の明確化を図るとともに，段落相互の関係を端的に捉える場面を設定したり，子供が捉えた視点を明示したりしました。さらに，子供が自分自身に気付くために，思いや願い，視点，学習方法や取組方を振り返る場面を設定しました。

子供の姿から

これらの支援によって，児童がどのように思いや願いをもったのかについて，どのように学習方法や取組方を工夫したのか，どのように自分自身に気づいたのかについてアンケート調査を行いました。

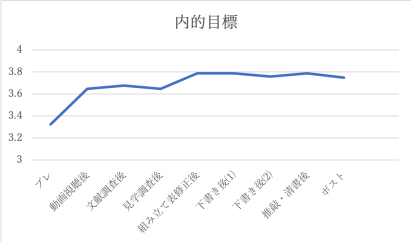

図１　思いや願いに関する項目
（内的目標）

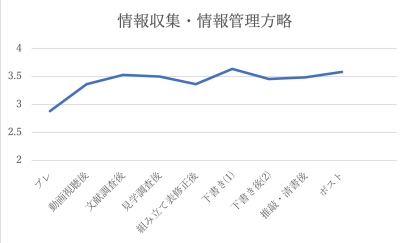

図２　学習方法や取組方の工夫
（情報収集・情報管理方略）

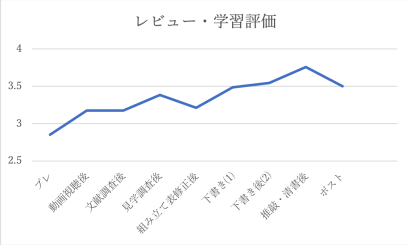

図３　自分自身への気付きに関する項目
（レビュー・学習評価）

アンケート調査の分析の結果，児童は動画や文献，見学調査後から，思いや願いに関する項目（内的目標）の数値に有意な上昇が見られました（図１）。また，動画や文献，見学調査の取材後に，学習方法や取組方の工夫に関する項目（情報収集・情報管理方略）の数値に有意な上昇が見られました（図２）。さらに，取材後から，自分自身への気付きに関する項目（レビュー・学習評価）の数値に有意な上昇が見られました（図３）。加えて，レビュー・学習評価の評価点が高ければ，組み立て表や下書きの評価点が高いことが示されました。

研究から見えたこと

アンケート調査の分析の結果，児童は動画や文献，見学調査後から，思いや願いに関する項目（内的目標）の数値に有意な上昇が見られたことからは，動画や文献，見学調査の社会科との関連的な指導によって，スーパーマーケットの売り上げを高めるための工夫に関する知識を十分に獲得させる支援が有効であったことことが示唆されました。一方で，店長という相手意識の設定は有効ではなく，児童が思いや願いを持つことには影響しなかったことが示唆されました。スーパーマーケットの売り上げを高めるための工夫をたくさん知りたいという思いが，書きたいという思いにつながったとともに，児童は，わざわざ店長に伝わりやすい調査報告文を書きたいとは思わなかったと考えられます。

また，動画や文献，見学調査の取材後に，学習方法や取組方の工夫に関する項目（情報収集・情報管理方略）の数値に有意な上昇が見られたことからは，情報を集めたり整理したりするために，学習方法や取組方を工夫していたことが示唆されました。アンケート結果からは，「大切なことがたくさんあったので，急いでメモをとった。」「内容を分けながらメモした。」などの記述が見られたことを踏まえると，児童は情報収集や整理の過程で学習方法や取組方を工夫していたと考えられます。

さらに，取材後から，自分自身への気付きに関する項目（レビュー・学習評価）の数値に有意な上昇が見られたことからは，視点に基づいて文章を整える場面の設定が有効な支援であったことが示唆されました。「はじめとぴったりな中」「中１と中２は仲間」と端的に視点を明示したことは，児童が自分の書いている文章を見つめ，振り返って修正することにつながったと考えられます。

最後に，レビュー・学習評価の評価点が高ければ，組み立て表や下書きの評価点が高いことが示されたことからは，報告等のアウトプットの活動には，振り返りや評価活動が有効であることが示唆されました。

このように，本研究を通じて，話題に関する十分な知識を獲得させたり，視点を端的に示したり，視点に基づいて文章を整える場面を設定したりすることは有効な方法であることが示唆されました。また，相手の設定については，伝わりやすい文章を書く必要感が重要であることが示唆されました。

今後は，児童が文章を書くことに用いた学習方法や取組方には，どのようなものがあるのかを明確にするとともに，どのように支援していくことが有効であるかについて検討していく必要があります。また，振り返りや評価は文章化の支援に有効であると考えられるため，その有効な支援の仕方について検討する必要があります。